

東福寺一郎
さん

三重短期大学前学長

津市長
前葉泰幸

学びに捧げた37年間

三重短期大学の学長を8年間お務めになり3月に退任された東福寺一郎さんをお迎えし、大学運営に携わりながら心理学の教授としても教壇に立たれた思いや、昭和57年から三重短期大学で過ごした37年間について前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/市本庁舎

市長 三重短期大学の設立は昭和27年です。戦災を受けた津市は戦後復興の真っただ中、市街地の7割が焼失し経済や市民生活もまだまだ混乱が続いていました。市の財政も極めて厳しい状況の中、「戦後の復興はまず教育から」という崇高な理念を掲げ、津市は三重短期大学を設立しました。女子教育の振興と勤労学生への高等教育の機会の提供という目的があったわけです。その後時代の移り変わりとともに少しずつ短期大学の方向性も変化してきましたが、一貫して津市立の大学として教育を提供し続け、今や卒業生は2万人を超えています。その67年の歴史の中で東福寺先生には半分以上の37年関わっていただきました。まず赴任した当時の、初めて三重短大に足を踏み入れたときのことを覚えていらっしゃいますか。

東福寺 率直な感想としては「小さいな」というものでした。その後、学生たちと関わっていく中で、やりがいを感じていくようになりました。というのも、当時はまだ28歳だったので、

学生とも10歳しか離れていなかったわけです。そういった気安さからか心理学を学びたいという学生が時折研究室にやってくるようになり、やがてその学生たちと読書会を始めるようになりました。その読書会は学生たちが卒業するまで続き、今でも年賀状をやり取りしています。

市長 20代の若い先生が学生たちにとって親しみのある存在だったのでしょね。テニス部の顧問もしていらっしゃったとか。

